

かな対応を心がけると共に、職員等の資質の向上を図り、より良いサービスの提供に努めていきます。

①町独自の研修については、民間企業の講師による全職員対象の接遇研修を実施したり、新規採用職員に対する接遇研修の充実を図っているほか、電話応対マニュアルを作成し指導しております。

②町民の視点に立ったサービスを提供することは最も重要な課題であり、相手の立場に立った誠実な対応が求められています。今後、全職員対象の極めて実践的な接遇研修等を行い、住民サービスの向上に取り組めます。

③委託先の事業者と連携・協議の上、町職員と同様の内容で、マナー・応対の研修に取り組みよう、働きかけたいと考えています。

②優秀町民等を町ホームページに

問 スポーツで東北大会や全国大会に出場する方の垂幕設置は実現していただいたが、スポーツに限らず文化その他の活動で活躍されている方は沢山いる。プライベートの問題もあるが、町のホームページ(以下、HP)にコーナーを作り、素晴らしい成績を残した方の写真やコメント等を掲載し、栄誉を称えてはどうか。

答 スポーツや文化活動などで活躍された方については、「広報なかやま」に随時掲載し紹介しており、「広報なかやま」は

町公式HPにも掲載されておりより広くご覧になることができます。優秀な成績を残した方を広く紹介することは大変有意義なことです。掲載基準や個人情報保護に留意しながら、町公式HPに掲載し、広くその活躍を町内外へお伝えしていきたいと考えています。

渡辺 博文 議員



①町の先進医療の考え方について

問 先進医療は劇的な治療効果が期待できるものの、全額自己負担であるため、施術を受ければ治る見込みがあっても、経済的な理由で断念し亡くなる方もいる。今後、先進医療を希望する町民が増えることも予想されるが、町として何らかの対策ができないか。

答 先進医療に係る費用は全額自己負担となっておりますが、療養全体に係る費用のうち基礎的部分については保険給付を行うとする制度改革が平成18年に行われました。先進医療の保険適用については、厚生労働省が未だ調査検討中であり、現時点においては、町が責任ある回答を申し上げることは適当でないと考えています。

②町の顔について

問 国道112号線沿いの雑草が伸び放題となっており、中山町の印象にも悪影響を及ぼすことから、町として何らかの対策ができないか。

答 道路を管理している山形河川国道事務所・寒河江国道維持出張所等によると、全国的に道路関係予算は減少し、草刈り作業等は縮減せざるを得ない状況のことです。町が国道用地の一部を借り受けひまわりを植栽したり、町が管理者に代わり駐車スペース花壇を管理している場所もありますが、ご質問の件はこれまでも同様に町としての要望や道路利用者の声を道路管理者に伝えたいと考えています。

問 町のホームページ(以下、HP)はきちんと更新されているが、リンクを張っている団体のHPの中で何年も更新されていないものが見受けられる。そういった団体に指導するなり、リンクを削除するといった対策を町として考えているのか。

答 長い期間更新されていない町内の団体については更新するよう指導を行い、それ以外の団体についてはリンクを外すことなどを含め、HP全体を定期的にチェックしたいと考えています。

問 中山町民歌は、町民でも知らない方が多く、歌える人

に限っては特定のごく少数の方しかおらず、大変残念に思う。この立派な町民歌をもっとPRし、広く町民に知ってもらい歌ってもらうことが必要ではないか。

答 町民歌は、中山町誕生30年、中山氏入部600年の記念事業の一つとして、昭和59年に町議会の議決を経て制定されたものです。町と縁のある服部公一先生にお願いしたもので、明るく親しみやすいフレーズで歌い上げる素晴らしい町民歌です。

これまで、学校行事や芸文祭で普及を図ったり、各種式典や会議等での斉唱が行われていますが、今後は、教育委員会と相談のうえ小中学校での普及や、各種大会や事業においてこれまで以上に町民歌を紹介する機会を増やすなど、一層の普及に努めたいと考えています。

堀川 政美 議員



①町の基本計画の実現策について

問 第5次中山町総合計画は、地方自治法に基づく基本構想策定義務化廃止後も、町の最上位計画として変わりはないか。

答 総合計画は、町の将来を見据えた将来像とその実現への方策にあることから、町民と共有するまちづくりの指針として、

町の最上位に位置付けられる計画として変わりが無いものと考えています。

問 総合計画策定後、2年目となるが、基本計画及び実施計画の実現に向けた今後の取り組みの考え方を伺いたい。

答 現在、PDCA(P:計画、D:実行、C:評価、A:改善)サイクルの一連の管理制度により事務事業を決定しており、これにより、総合計画の着実な推進を図ることができると考えています。具体的には、全事業の4年間の事業計画を町長が査定し事業認定を行ったうえで、次年度の予算要求を行い、翌年度に実施済みの事業を評価し、改善点を洗い出し、その後の事業計画に活かすという制度で、事業の「選択と集中」により、限りある予算を有効活用するものです。

問 基本計画の中には、「みんな目指そう協働の指針」が盛り込まれており、実現のためには住民参加型の検討会等が必要ではないか。

答 住民参加型の検討会は有力な方策の一つであり、今年度は中山中学校建設検討委員会をはじめ、各種検討会等が運営されています。それらは協働によるまちづくりに大きく寄与するものであり、今後も機会を捉えて住民参加型の検討会を設けたいと考えています。

②「ひまわり元気のさと」を利用した健康づくりについて

問 元気のさとの施設を活用し、専門員による各種のトレーニング指導や、健康相談・食事指導、医療機関等の専門知識を組み合わせた健康増進プログラム、各施設の運動プログラム作成、ゆ・ら・らの温泉を活用した予防医療等の健康づくりを考えてはどうか。

答 町民の健康維持増進、医療や介護予防の観点から、スポーツや各運動施設を健康増進事業に関連づけた考え方は大事なポイントです。ヘルスアップ講座等の事業で総合体育館を活用するなど、できることから実施したいと考えており、健康と福祉のフェスティバルでは、健康ウォーキングを開催する予定です。

健康増進プログラム作成等の医療機関への協力要請については、業務負担が多くなっている中で非常に困難な状況にあり、施設毎の運動プログラムの作成や温泉を活用した予防医療の健康づくりについても、現実的には大変困難であると思われまます。

なお、運動や健康増進、温泉の効用などのPRを図るため、元気のさとを出発点としたウォーキングの町内モデルコースの設定や、正しいウォーキングの姿勢、正しい温泉の入浴法などを紹介するチ

ラシの作成を、来年度に向けて検討することとしています。

西塔いく子 議員



①石子沢川の整備を町としてどのように考えているか

問 石子沢川は、一級河川で国や県の管理下にある。柳沢地区内を流れているということもあり、地域住民は年に2回の草刈りを行うなど水の流れや汚れには大変気をつけている。石子沢川の水もきれいになり、ハヤが群れを作って泳いでいたり子ども達が釣りを楽しんでいるのを時々見かけるようになった。

子ども達を自然の川で遊ばせてやりたい、川環境を良くしたいという願いから、マスのつかみ取りを町からも補助を受け、ここ数年実施している。

それを一歩前進させ、自然の魚を子ども達が網で獲れる川環境づくりをすることに、町では手をお貸せないだろうか。

答 町では、石子沢川流域全体の総合的な安全性向上という観点から、長年にわたり石子沢川の管理者である国土交通省及び県に対して整備を要望してきまして、

平成22年度から今年度まで、柳沢集落内を重点的に、堆積土砂の

②脳ドックの啓発と助成を考えてはどうか

問 脳卒中は、がん・心臓病とともに三大疾病の一つとなっている。

脳ドックは保険がきかないために受けるチャンスもなく情報も少ない状況にある。一日ドックでは、がんや心臓病はチェックできるが、脳卒中は脳ドックでなければ難しい。

脳の病気が高齢者だけの病気ではなく、30歳を過ぎたらドックは受けたほうが良いと言われていた。発症の多い脳卒中を予防するため、脳ドックへの助成や啓発活動等をする考えはあるか。

答 脳ドックの効果については、十分な認識していませんが、様々な課題もあります。一般的には少額の助成では効果が低いこともあり、助成の額・助成対象者についての検討や、実施後のフォロー体制等を整備する必要があります。

さらに財政上の理由からも、脳ドックの助成については、当面実施することは困難と考えます。